

次の噴火で発生するかもしれない火砕流について

皆様こんにちは！ジオパーク推進協議会・学術専門員の西です。前回のジオパーク通信では、火砕流（かさいりゅう）についてふれましたが、今回はさらに詳しくお話したいと思います！

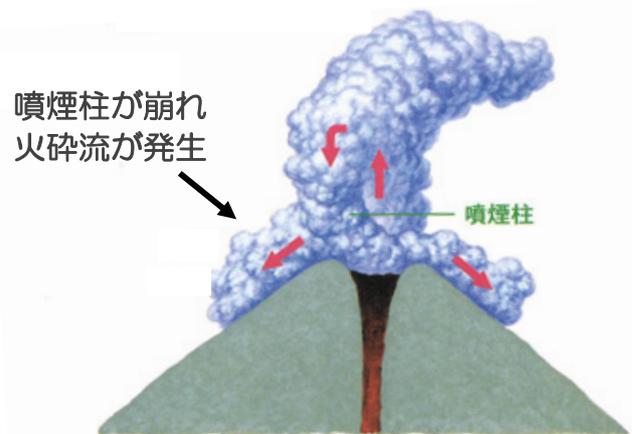
① 火砕流とは何か？



1991年、雲仙普賢岳（長崎県）で発生した火砕流

噴火の際、火山のガスと噴出物が高速で山を流れ下る現象のことを「火砕流」と言います。火砕流は700℃程と高温で、時速100kmを超えることもあります。有珠山でも江戸時代の噴火で発生した火砕流で多くの犠牲者が出ました。

② 火砕流が起こる原因1



火砕流が起こる原因はいくつかあります。一つ目は、噴火によって立ち昇った噴煙が崩れて発生するもので、これを噴煙柱崩壊型火砕流と言います。

③ 火砕流が起こる原因2

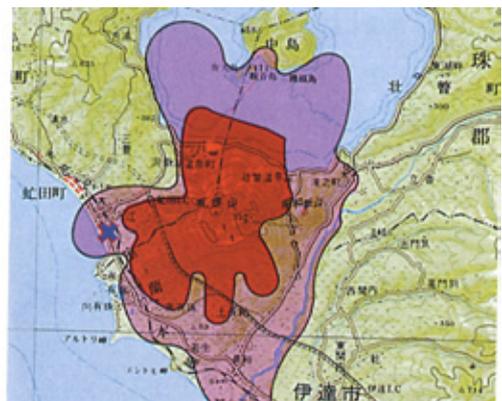
溶岩ドームが崩れ
火砕流が発生



また、新しくできた溶岩ドームが崩れて火砕流が発生することもあります。

1991年に発生した雲仙普賢岳の火砕流がこのタイプです。ちなみに有珠山の火砕流の発生要因は明らかになっていません。

④ 有珠山の火砕流



1822年の有珠山噴火で発生した火砕流の範囲
(ここでは火砕サージも含めて「火砕流」と表現しています)

有珠山では過去9回の噴火のうち、3回以上火砕流が発生しました。次の噴火でも火砕流が発生するものとして考え、行動しましょう。

今回は、なぜ火山をよく知る必要があるのかについて、お伝えします。